

## herstories — 女性の視点でたどる美術史

**会期**：2025年3月20日（木・祝）－5月25日（日）（月曜日休館。ただし5月5日は開館、5月7日休館）

**開館時間**：10:00-17:00

**観覧無料**

**会場**：京都市立芸術大学芸術資料館

**主催**：京都市立芸術大学

※入館の際に介助等が必要な方はスタッフまでお申し出ください。

### 展覧会概要

「herstories — 女性の視点でたどる美術史」は、京都市立芸術大学初の女性学長である赤松玉女の退任を記念し、女性の視点から美術史を再解釈する試みです。これまで男性中心で語られてきた美術史の中で、女性芸術家や教育者たちが果たしてきた役割に焦点を当て、多様な社会的・文化的背景を浮かび上がらせます。

本展では、赤松玉女を中心に、京都芸大の歴代女性教員たちの作品や教育活動を紹介し、彼女たちが紡いできた「herstories」（女性の物語）を描き出します。さらに、現代におけるジェンダーや多様性に関する対話を促進し、新しい美術史の構築を目指す場を提供します。

### 展示構成

本展では、芸術資料館の豊富なコレクションを中心として、一部借用作品も交え、本学の名誉教授、教員による作品に注目しながら、女性芸術家の表現の多様性を紹介します。

### 出品予定作家

赤松玉女 AKAMATSU Tamame

秋野不矩 AKINO Fuku

上野リチ Felice [Lizzi] RIX-UENO

大串佐知子 OGUSHI Sachiko

重松あゆみ SHIGEMATSU Ayumi

谷澤紗和子 TANIZAWA Sawako

唐仁原希 TOJINBARA Nozomi

ひろいのぶこ HIROI Nobuko

### 関連行事

展覧会期間中、女性芸術家の活動とその意義を考察するため、多様なイベントを実施します。

**1. クロストーク（出品作家によるトーク。司会：加須屋明子 本展企画。京都市立芸術大学教授）**

日時：2025年3月22日（土）13:30-15:00

場所：京都市立芸術大学講義室1（C棟1階）

参加無料・事前申込不要

使用言語：日本語

出品作家による、本学での教育経験や創作活動を語るトークイベント

（2部制。第2部は同教室にて15:30より、同時開催の赤松玉女退任記念展関連行事、アーティスト・トーク）

**2. ギャラリートーク 参加無料・事前申込不要**

日時：3月25日（火）、4月22日（火） 各12:15-12:45

場所：京都市立芸術大学芸術資料館

使用言語：日本語

**3. 谷澤紗和子ワークショップ「ことばの切り紙」**

日時：2025年4月26日（土）13時～16時

対象：中学生以上 15人

場所：京都市立芸術大学

事前申込制：申し込み方法 [Google フォーム](#)から



持ち物：カッターナイフ、鉛筆、消しゴム

使用言語：日本語

谷澤紗和子の作品鑑賞後、参加者が自身のアイデンティティに関する言葉を選んで切り紙を制作し、会場に展示します。

<https://www.tanizawasawako.com/workshop/>

**4. 国際シンポジウム「芸術とジェンダー：多様性と包摂の視点から」**

日程：2025年5月17日（土）、18日（日）

場所：京都市立芸術大学 C棟1階講義室1（予定）

使用言語：日本語、英語（逐語訳もしくは資料配布）

このシンポジウムでは、歴史に埋もれがちな女性の視点を掘り起こし、芸術とジェンダーに

関する多様な取り組みを探求します。ポーランドからは、マグダレナ・アバカノヴィチを中心に研究するマルタ・スモリンスカ氏、アンナ・ボロヴィエツ氏らが参加。さらに日本からは、小勝禮子氏やパヴェウ・パフチャレク氏、加須屋明子氏、赤松玉女氏、深谷訓子氏、中村翠氏らを交え、新たな美術史の構築を目指します。

## 出品作家略歴

### 赤松玉女 AKAMATSU Tamame

1959年兵庫県尼崎市生まれ。1984年京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程絵画専攻（油画）修了。相反する感情が同時に存在し、複雑に移ろう人間の内面をテーマに、油彩、水彩、フレスコ技法など、画材や技法を組み合わせた絵画表現を研究。イタリアでの創作活動などを経て、1993年から京都市立芸術大学美術学部美術科油画専攻教員。1990年代には3人のアーティストのユニットでの活動や、2010年代には障害のある人々や家族、支援する人々と一緒にアートを通じた交流やサポートの実践を行った。2019年4月から2025年3月まで京都市立芸術大学学長。

### 秋野不矩 AKINO Fuku

1908年静岡県生まれ、1926年静岡県女子師範学校卒業、1927年石井林響に師事、1929年西山翠嶂の画塾「青甲社」に入塾。1937年京都にて「春泥会」結成に参加。1948年「創造美術」（現創画会）結成。1949年京都市立美術専門学校（現・京都市立芸術大学）着任（日本画）。1962年ビスバ・バーラティ大学（現：タゴール国際大学、インド）の客員教授。以後渡印を重ね、インドの文化、自然、庶民の生活などをテーマに精力的な制作活動を継続。1974年京都市立芸術大学定年退職。同年5月渡印、創画会結成。京都市立芸術大学名誉教授。1991年文化功労者顕彰。1999年文化勲章受章。2001年逝去（享年93歳）。

### 上野リチ Felice [Lizzi] RIX-UENO

1893年ウィーン生まれ。1917年ウィーン工芸学校卒業。同年ウィーン工房参加。1925年、建築家・上野伊三郎と結婚、1926年京都に移住。日用品や室内装飾など多彩なデザインをウィーンと京都双方で手がける。1951年京都市立美術大学（現・京都市立芸術大学）教員（図案）。1963年定年退職。同年インターナショナルデザイン研究所設立。1967年逝去（享年74歳）。

### 大串佐知子 OGUSHI Sachiko

1934年兵庫県神戸市生まれ。1959年京都市立美術大学大学院西洋画科専攻修了。同年4月より同研究室助手。1966年4月—2000年3月京都市立芸術大学美術学部教員（油画）。京

都市立芸術大学名誉教授。自然の風景を思わせる情趣性の濃い色彩抽象に独自の表現世界を展開している。

#### **重松あゆみ SHIGEMATSU Ayumi**

1958年大阪府生まれ。兵庫県神戸市を拠点に制作。1983年京都市立芸術大学大学院美術研究科陶磁器専攻修了。在学中より走泥社の創設メンバーらの薫陶を受け、新しい陶芸表現を牽引する一人として注目される。陶磁器の手びねり造形が持つ「内と外」の関係性に注目し、有機的なフォルムと色彩を纏う陶造形を追求する。2002年4月—2024年3月京都市立芸術大学美術学部教員（陶磁器）。京都市立芸術大学名誉教授。

#### **谷澤紗和子 TANIZAWA Sawako**

1982年大阪府生まれ、京都市在住。2007年京都市立芸術大学大学院美術研究科修了。「妄想力の解放」や「女性像」をテーマにした作品を制作。ジェンダーへの関心を元に、女性表現者に対する固定的な評価を問い直す。インスタレーション、作陶、切り紙、絵画など、複数の表現手法を横断、交差させながら制作を行う。小説家やアーティストとの共同制作にも取り組む。2024年より京都市立芸術大学美術学部美術科教員（油画）。

#### **唐仁原希 TOJINBARA Nozomi**

1984年滋賀県生まれ。京都を拠点に活動。2020年京都市立芸術大学大学院美術研究科博士（後期）課程修了。博士（美術）。西洋の古典絵画や児童文学、日本のポピュラーカルチャーの表現を組み合わせて油彩画を制作している。作品には少年や少女が多く登場し、神話的、物語的な世界観を創出。2023年より京都市立芸術大学美術学部美術科教員（油画）。

#### **ひろいのぶこ HIROI Nobuko**

1951年神戸生まれ。1977年京都市立芸術大学美術専攻科染織専攻修了。1988年4月より2017年3月まで京都市立芸術大学美術学部教員（染織）。1997-98年文部省在外研究員としてアメリカ、カンザス州立大学に在籍。2010年より国立民族学博物館共同研究員。繊維から糸や布へという手仕事の原点を自身で確かめつつ、作品発表を続ける。京都市立芸術大学名誉教授。

画像



赤松玉女《梅雨の音》2000年 油彩、カンバス



秋野不矩《雨期》1969年 顔料、膠彩、綿布



上野リチ《壁紙》1928年 インク、紙



大串佐知子《Untitled》1997年 油彩、カンバス



重松あゆみ《Jomon Organ》2023年 陶、テラシジラタ、手びねり成形



谷澤紗和子《女性像の演習》2024年 アクリル、紙



唐仁原希《遭遇／空から舞い降りた少女》2023年 油彩、カンバス



ひろいのぶこ 《Read a book》2014年 絹、切る、結ぶ、平織り

**同時開催：**

「赤松玉女退任記念展 Ladies—これでおしまい、そしてここから」

会場：京都市立芸術大学内

C棟1階プロジェクトルーム

C棟6階交流スペース

C棟6階アートスペース k.kaneshiro

D棟1階学長室

会期：2025年3月20日（木・祝）—3月30日（日）

イベント：3月22日 赤松玉女によるアーティスト・トーク

お問合せ：京都市立芸術大学芸術資料館

〒600-8601 京都市下京区下之町 57-1

TEL：075-585-2008 FAX：075-585-2018

[museu@kcua.ac.jp](mailto:museu@kcua.ac.jp)

<http://libmuse.kcua.ac.jp/muse/>